

第5回 道の駅「来夢とごうち」再整備基本計画策定検討委員会 記録

■日時・場所

日時： 令和4年11月24日（木） 10：00～11：50

場所： 安芸太田町役場本庁 東館2階 大集会室

■次第

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 議題
 - (1) 委員長選出について
 - (2) 今年度の経過について
 - (3) 道の駅再整備の方向について
4. 閉会

■資料

- 資料1 : 今年度の経過について
資料2 : 事業計画案
資料3 : 整備方針の検討にあたって（条件課題の整理）
参考資料1 : 道の駅周辺事業者ヒアリング結果概要
参考資料2 : 交通量調査結果概要報告資料
参考資料3 : 道の駅利用者アンケート報告書（夏季）
参考資料4 : 民間ヒアリング報告書

■会議風景



■参加者

* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属・役職	出席
委員長	中村 隆行	広島経済大学経営学部スポーツ経営学科 准教授	○
委員	末國 浩二	安芸太田町商工会 事務局長 (代理出席)	○
委員	山田 知子	比治山大学 現代文化学部マスコミュニケーション学科 教授	○(WEB)
委員	中本 正廣	安芸太田町議会 議長	○
委員	久方 正夫	広島市農業協同組合戸河内支店 支店長	○
委員	栗栖 修司	地域商社あきおおた 事業本部長	○
委員	河本 穂津雄	安芸太田町農業委員会 会長	○
委員	沖段 琢磨	太田川産直市 (代理出席)	○
委員	佐々木 治郎	安芸太田町自治振興会連絡協議会 会長	○
委員	佐々木 富明	上殿連合自治会 会長	○
委員	波佐本 栄二	道の駅周辺出店者事業者協議会 代表	○
委員	大庭 由弥	子育て世代 代表	×
オブザーバー	藤原 康史	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 副所長	○
オブザーバー	森浦 章治	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 調査設計課長	○
オブザーバー	神田 昌吾	広島県西部建設事務所安芸太田支所 技術次長	○
オブザーバー	上垣内 茂	広島県西部建設事務所安芸太田支所 主査	○
オブザーバー	森田 朋憲	広島市農業協同組合総合企画室 副部長	○
事務局	橋本 博明	安芸太田町 町長	○
事務局	小野 直敏	安芸太田町 副町長	○
事務局	木本 英哲	安芸太田町 参事	○
事務局	菅田 裕二	安芸太田町産業観光課 課長	○
事務局	栗栖 俊生	安芸太田町産業観光課 課長補佐	○
事務局	正木 隆	安芸太田町産業観光課 課長補佐	○
事務局	渡海 滋	安芸太田町産業観光課 係長	○
事務局	岩見 圭子	安芸太田町産業観光課 主査	○
事務局	二見 重幸	安芸太田町企画課 課長	○
事務局	野川 伸枝	安芸太田町企画課 係長	○
事務局	小笠原文 文麿	安芸太田町建設課 係長	
事務局	栗栖 香奈子	安芸太田町会計課 課長補佐	
事務局	江川 一康	安芸太田町教育課 課長補佐	
事務局	栗栖 剛	安芸太田町総務課危機管理 室長	
事務局	志賀 俊介	地域商社あきおおた	
コンサル	八木 周吾	ランドブレイン株式会社広島事務所 所長	○
コンサル	田中 元清	ランドブレイン株式会社東京本社 中四国担当部長	○
コンサル	鈴木 将光	ランドブレイン株式会社福岡事務所 所長補佐	○(WEB)
コンサル	田添 雄大	ランドブレイン株式会社広島事務所 主任補	○
コンサル	水嶋 啓	株式会社長大まちづくり事業部 PPP 推進部 主任技師	○
コンサル	上田 航平	株式会社長大まちづくり事業部 PPP 推進部 チーフ	○
コンサル	柚山 隼人	株式会社長大広島支社広島営業企画部	○

■記録

1. 開会

2. 町長挨拶

町長 昨年度は基本計画の中間とりまとめを行い、今年度は基本計画のさらなるブラッシュアップを行いたいと考えています。昨年度の議論の中でいろいろ検討した結果、人が多く集まる施設であるため、民間の力を活用し、公民連携を検討するようにご意見をいただき、今年度は、その可能性を事務局で検討してきました。その取組経過を報告することが、本日の大きなテーマになると思います。この基本計画は、本町の産業振興、あるいは本町自体の大きな活性化の起爆剤となるようなものだと思っているので、委員の方々の意見を聴きながら、さらなる具体化に向けて進めていきたいと思っています。

3. 議事

(1) 委員長選出

事務局 (仮議長) 検討委員会を開催するにあたり、これまで委員長をお努めいただいた跡見学園女子大学 准教授 篠原靖様が、都合により委員を退任されるご意向がありました。委員長が空席となりましたので、会長が選出されますまでの間、仮議長として私、菅田のほうでの議事にはいらさせていただきます。皆さまご了承をお願いいたします。委員長の選出については、『道の駅「来夢とごうち」再整備基本計画策定検討委員会設置要綱』第5条第2項により、「委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める」となっていますが、いかがいたしましょうか。

佐々木(富)委員 前委員長の篠原先生には大変お世話になりました。お礼を申し上げます。新委員長の選出につきましては、事務局に選出をお願いしたいと思います。

沖段委員 事務局にという話も出ましたが、安芸太田町の大きな計画のひとつですので、町内の方で、委員長をお願いしたいと思います。大きな事業を動かすものになりますので、中本委員を推薦します。

事務局 (仮議長) 沖段委員から中本委員を委員長にとご意見いただきましたがいかがでしょうか。

中本委員 議会の立場としては、私が委員長に就任しない方がよいと思います。そのため、事務局側の案を出していただければと思います。

事務局 (仮議長) 事務局の案としては、広島経済大学経営学部スポーツ経営学科の中村委員を考えていますがいかがでしょうか。

委員 異議はありません。

事務局 (仮議長) それでは、異議なしということですので、中村委員をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。それでは、これからの議事は中村委員長をお願いしたいと思います。まずは、ご挨拶をお願いします。

中村委員長 ご指名ありがとうございます。僭越ながら進行役として務めさせていただきます。

と思います。私も力不足ではございますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い
いたします。

(2) 今年度の経過について

－ 事務局より説明（記録省略） －

佐々木(富)委員	昨年度整理した資料では、A案とB案があったが、自治会としては、A案の進入路の考え方を支持したいと思っています。そして、町道門田線を廃止し、平地にすれば、よりよい計画を練ることができると思います。また、セブンイレブンも無視できないと思います。チャレンジショップは、道の駅の建物内に入ってもらえばよいと考えます。A案の進入路を支持する理由は、上殿小学校が現在休校となっているが、将来、跡地利用を考えたときに、道の駅と上殿小学校へのアクセスがうまくできるようにしたらよいと考えています。B案だと、入口が信号と信号の間になるので、渋滞が発生する可能性があると思います。A案だと、旧道を通ることができるので、渋滞緩和できると思う。
中本委員	今のご意見は、議題に沿った意見ではないと思います。
委員長	今の議事は、今年度の経過の報告になります。あとの議事で意見を伺いたと思います。
事務局	昨年度のA案を支持する件については、意見として受け取ります。委員の方々の意見を聞き取りながら、どのようなかたちがよいか検討する際の参考としたいと思います。
山田委員	これまでに既存の事業者および民間企業へのヒアリングを行っていると思います。これからさらに加えて、公募型サウンディング調査を行う狙いと、何を調査から得たいのかを確認させてください。
事務局	民間企業ヒアリングの後に、公募型サウンディング調査を行うということの説明だと思っています。民間企業ヒアリングにつきましては、参考資料4の1ページの対象企業にも記載していますが、分野でいいますと、建設、企画運営、コンサル、物販、子育て等、道の駅の事業に携わっている企業や、関係の深い企業にヒアリングを行いました。目的としては、サウンディングを行う前に、本事業への興味や感触をつかむことや、現在作成中の事業プランへの賛同をいただけるかどうかのあたりをつけるために民間企業ヒアリングを実施しました。この民間企業ヒアリングの結果を踏まえて、事業プランをブラッシュアップして、今後の公募型サウンディング調査を行い、いろいろな企業から幅広く意見をもらいたいと考えています。
山田委員	民間企業ヒアリングを実施した7社に対して、より詳しく公募型サウンディング調査を行うのでしょうか。もしくは、例えばエリアを広く設定し、今まで関係なかった事業者等、新たな分野の企業等も含んでサウンディングを行うのでしょうか。
事務局	公募型サウンディング調査については、この7社に限定するものではございません。ホームページやメディアを通して、幅広く周知し、新規の企業と対話を進めていきたいと思っています。

(3) 道の駅再整備の方向について

－ 事務局より説明（記録省略） －

波佐本委員	出店者協議会で先日会議を行いました。一番の問題は、DBO や PFI で家賃等があることを懸念しています。家賃が2、3倍になると、出店は難しくなると思います。そのため、DBを希望したいという話が出ています。家賃交渉等がこれからのネックになると思っています。
中村委員長	民間企業ヒアリングでも、敷地条件、導入機能、事業スキームと既存事業者との連携は、ポイントと言われております。
来栖委員	近年コロナ禍ということもありますが、お客様も順調に維持できていると思っています。また課題は同じような共通認識でいると思いますが、やはり、敷地が国道191号で分断されており、利用者が不自由に感じている点が課題の1つであると思います。国道の北側か南側のどちらか一方に集積することがよいのか、もしくは敷地をつなぐ方法も選択肢の1つだと思います。現状の出店事業者も今後のステージが全く変わるとなると、今の事業を引き継げるかどうか不安をお持ちだと思います。私たちも指定管理で町の施設を運営していますが、地域商社がすべてを担えるのかどうかも組織自体が未熟なため、DBO や PFI で民間のノウハウを導入するのも1つのポイントだと思います。しかし、道の駅は地域の大きなエンジンになることだと思いますので、単ににぎわえばよいというものではないと思います。地域の人々が道の駅を通じて稼ぐ力がついていくことが、大きな使命だと考えています。
末國委員	売上規模がどのくらいになるのかが気になります。例えば、現在と比較して倍近くになるのか、どのくらい売上が向上するのか、そして、どのくらいの雇用が創出されるのかが気になります。売りに上げに見合った家賃や経費等があると思います。また、収益率が5%を下回ると、継続性の問題が発生してきます。商売の観点からそのあたりが気になります。おそらくハコを作ると事業者の皆様が切磋琢磨されて、どう売りに上げをあげるのか、観光にどう結び付けるのかの工夫はされると思いますが、目安としては欲しいと思います。
久方委員	JAとしては、今の敷地の中に建物が建っているという状況の中で、この建物があるかないかで事業の進めかたは変わってくると思いますので、難しい立場ではございます。JAの建物を解体することになった場合、解体費用と採算、補助金の有無などを懸念しています。
佐々木(治)委員	コンセプトは練られてははっきりしてきていますが、今の道の駅の名称は「来夢とごうち」ですが、今後は「安芸太田」にした方がさらによいと思います。また、「来夢」がコンセプトとどう関連してくるのが疑問です。名称はとても重要であり、周辺住民の意識を高める意味でも改名は検討すべきであると思います。
佐々木(富)委員	昨年、山口県の道の駅を周らせていただきました。それがきっかけで、岡山県や島根県の道の駅も周っています。高野の道の駅がかなりの人、良い設備でよい道の駅だと思いました。道の駅来夢とごうちの集客力もこの近辺の道の駅にも負けていないと思います。できるだけ多くの町内の特産品・野菜を販売してほしいです。その次に飲食だと思っています。今の道の駅は、商品・特産品が少ないですが、周りのチ

チャレンジショップやセブンイレブンがにぎわっているのので、それを取り入れて、1つの建物に集約してほしいと思います。

河本委員

産直市の面積の225㎡を広げてほしいと思います。産直市で農産物・特産品を買うことが目的となっていることもあるので、面積規模が気になります。しかし、生産者が減っていることもあるので、農業振興を含めて考えていく必要があると思います。また、令和9年度の供用開始は遅すぎると思います。生産者の高齢化のことも考えると、早急に建設を開始する必要があると思います。

沖段委員

町としては、事業の手法をPPPで、DBOかBTOで検討することを決められたということですが、そうすると来年度に民間事業者公募になると思います。その民間事業者にあてがあるのかないのが気になります。もし、あてがないようであれば、この計画は難しいと思います。安芸太田町は大きな事業を控えているので、資金調達や施設所有の問題もあります。また、民間事業者の「民間」は、PPPの企業であると思いますが、今の出店者も「民間」ですので、言葉の使い方を整理していただきたいと思います。また、なるべく事業を早く進めていただきたいのですが、この全体計画がないと、ひとつひとつが前に進まないのが気になります。先ほど、自治会から門田線を廃止したほうがよいという話もありましたが、そのようであれば先に確実にそれを抑えていくことが必要だと思います。三國屋やモルテンに行く道はどうなるのかもあるので、簡単にはいかないとは思いますが。進入路についても、丸印で書いてありますが、使われていない芝生の件もあるので、そのあたりも検討していただければと思います。先ほど産直市の面積が少ないとの意見もありましたが、バックヤードも絶対必要ですので、産直市+バックヤードの捉え方もしてほしいと思います。120名の生産者がいますが、高齢化が進んでいるので、できるだけ早く建設していただければと思います。

中本委員

道の駅は、今後、町の産業の柱にならないといけないと考えています。先ほど皆様からこの時期にやるのが遅いということもありましたが、全体像をまず早く決めないと、計画が前に進まないと思います。この資料作りで大変になっていないか思います。資料作りよりももっと前に進むことを考えていかなければいけません。経過説明などは必要ないと思います。今から先のことを考えることが大切です。先ほど進入路の話もありましたが、早く全体像のこと、敷地規模・施設面積のこと、これだけのスペースで足りるのかどうかのことを考えていくべきだと思います。これまでの図面は白紙に戻して考えていくべきだと思います。

山田委員

昨年、篠原先生と話をさせていただきましたが、整備コンセプトや整備イメージから捉えられる方向性が広範囲で膨大という印象を共通して持っていました。昨年に加えて今年もしっかりと多方面への調査が実施され膨大な資料が蓄積されましたので、この度の会議ではそれがどのようにコンセプトに集約され反映されたのか関心を持っておりましたが、結果的には「方向性の妥当性が確認できました」という一言のご報告となり残念です。また、当初の施設整備方針では、町民利用中心の平日、町民と来訪者が集う休日といった2つの顔をもつという安芸太田町ならではの特徴を強調されていて共感しておりましたが、今日の資料ではその点がイメージ出来ません。この2つの顔を明確に打ち出すべきだと思います。また、「つなぐ」

というコンセプトも気持ちはわかりますが、現行では、誰が何をどのように繋ぐのか、それが道の駅・地域団体・町へどのようなメリットをもたらすのか等の具体的なものが判りません。たとえば、世羅町の道の駅は、道の駅周辺に、食があったり、観光施設・観光スポットがあったりしていて、道の駅はつなぐ拠点としているので、置いている特産品は、他の道の駅に比べて、非常に少ないです。道の駅で買って、帰るという直行直帰になることを避けるようにしています。世羅町はつなぐコンセプトが明確になっています。安芸太田町の道の駅は、地域の各拠点につなぐと一口つつ、道の駅の軸として、食と特産品となっているので、道の駅で完結するようなイメージを持ってしまいました。また、建物が新しくなっても、配置が変わっても、導入機能が今とどう変わるのだろう、また他の道の駅とどのような差別化戦略が図れるのかなどよくわからない印象を持ってしまいました。

藤原オブザーバー

道の駅は、4頁の要項がございまして、その目的は、道路利用者の利便性の向上と施設の利用促進を図り、安全で快適な道路交通環境の形成、並びに地域の振興に寄与することとしかございませぬ。さまざまな付加価値をつけて、やっていくことが大切だと思いますので、また皆様に整理していただければと思います。また、コンセプトに情報発信が書いてあると思いますが、防災情報や道路情報、ウィンタースポーツも盛んですので、積雪情報などの情報提供機能を押さえていただきたいと思っています。

神田オブザーバー

県としては国道191号が関連してくるため、どのようなかたちでご支援できるか県としても考えていきたいので、今後ともよろしくお願ひします。

森田オブザーバー

産直市がメインになるのであれば、ハードの面だけではなく、鳥獣対策や耕作放棄地の問題、新規就農者の受け入れ等、農業関連の施策も取り組んでいければと思います。

事務局

簡単ではございますが、先ほどの委員の皆様のご意見にご回答させていただきます。まず、波佐本委員のDBを希望している点については、まさに大企業が参画していくので独壇場になる可能性があることを懸念されるということだと思います。地域の産業の継続のためにも地元事業者にもメリットがあるような形を模索していきたいと思っています。ただ、DBも今のところ検討範囲内ではございます。

事業者の売上規模については、現段階で、チャレンジショップ、セブンイレブンの売上を把握できていないのが現状です。新しい道の駅の全体像を踏まえて、再編後の収益構造や収支予測が立つかどうか今後検討していきたいと思っています。

JAの建屋の話については、JAと対話を進めながら決めていきたいと思っています。道の駅の名称については、重点道の駅の関係もありますので、今すぐ回答は難しいですが、参考として意見を承り、是非についても検討していきます。

町内の特産品・飲食が重要だということ、また、道の駅本体ではなく、周辺がにぎわっているとご指摘をいただいています。新しく道の駅を整備した時に、安芸太田町内の特産品だけで成り立つのかという問題もありますし、季節ごとにラインナップが揃えることができるかということもあるので、どのようなかたちで提供できるか考えていきたいと思っています。

産直市の面積については、面積を広くとっても全体を活用できなければ、意味が

ない話ですので、改めて農業振興と合わせて、ソフト面も検討していきたいと思
います。

スケジュールが遅すぎるのではないかという点ですが、並行してできることはな
いか検討していきたいと思います。

「民間」という書き方についても、誤解のないよう使用していきたいと思いま
す。産直市のバックヤードについても配慮していきます。

全体像、敷地面積の広さについては、交通量調査や利用者ニーズを早期に極めて、
なるべく早く全体像をお示しできるように進めていきたいと思います。

コンセプトが全部入りになっているという話もありました。その中でも観光地を
つなぐという具体的な「つなぎ方」はどうかのご指摘をいただきました。機能
としてどう変わるのかも見えてこないことも承りました。改めて整理して、安芸太
田町の道の駅が目指すところを明確にお示ししていきたいと思います。

道路情報などの提供については、基本情報として考えているので、必要な機能と
して組み込んでいきたいと思います。

国道 191 号については、県と情報共有・連携を取りながら話を進めていきたいと
思います。

産直市がメインの話もありますが、耕作放棄地の問題等の農業施策の実行につい
ても視野にいれながら考えていきます。

沖 段 委 員

PPP 事業で考えているということですが、来年は事業者公募をしていくと思
いますが、町として考えている民間事業者があるのでしょうか。

町 長

スケジュールの関係ですが、我々としても早く決めさせていただければと思っ
ています。そのうえで、とにかく集客が大きなテーマだと思っています。そのため、
公民連携を考えています。公民連携をしていくにあたって、事業者を公募して
いくこととなりますが、その前にそもそも事業者がどのくらい興味を持っている
のか、事業者目線でどんな提案がいただけそうなのか、それを事前に把握する
ために公募型サウンディング調査を予定しています。我々もサウンディングが初
めてですので、サウンディングに興味をもってもらえる事業者がいるのか不安
があったため、事前に民間企業ヒアリングを実施しています。民間企業ヒア
リングの中で、6社参加いただきましたが、関心を持っていただいております。
引き続きサウンディングにも手を挙げていただける感触を受け止めています。
最終的に公募型の入札になっていく予定ですが、今の状況であれば、何とか
入札までの条件整理までいける感触も持っています。そういった意味では、少
し手間はかかっていますが、民間事業者と連携して考えていくほうが、我々
が考えている道の駅をつくるにあたっては、有効ではないかと思っています。
また、山田委員からご指摘のありましたように、てんこ盛りすぎて絞るべき
ではないかというところですが、今回調査を実施し、観光面に重点をおくよう
にしておりますが、それでもなお、観光の面で具体的にどうつなぐのかが見
えないとご指摘いただいたので、引き続き具体化に向けて議論していきたい
と思います。また、サウンディングの中でも「つなぐ」ためのアイデアを
勉強していきながら、ご提示をさせていただきたいと思います。

中 村 委 員 長

よりよい道の駅になっていきたいとのことでしたので引き続きよろしくお願
い

いたします。ありがとうございました。

5. 閉会

以上